

コミュニケーション

No. **101**
2021.3月号

Contents

- P2・3 園長あいさつ
こんにちは!あかちゃん/移動動物/訃報/飼育動物数
- P4・5 【特集1】 キリンの出産と人工哺育
- P6・7 【特集2】 新しいサル舎が完成
- P8・9 飼育レポート
- P10・11 イベントレポート/今後のイベント
- P12 飼育日誌/お客さまの声/かたばた通信

当園の情報誌「コミュニケーション」が前回100号の節目を迎え、本号から新たな歴史を重ねていきます。本誌は動物園の情報を「伝える」ためにあるのですが、何を伝えるかが大事になります。情報の「情」には「こころ」の意味もありますが、動物園が伝えたい「こころ」や「思い」とは何か、整理してみたいと思います。

動物園は来園者に動物との出会いを提供し「動物理解」につなげる努力をしています。来園者にどのくらい動物のことを理解いただいているのか、検証することは難しいですが、動物を知り関心を高めていただくことで、動物が生きる自然環境にも思いが広がり、それが動物保護や生息環境保全に広がってほしいと考えています。

もう一つ大事なことは「動物園理解」につなげることでしょう。動物園が行う展示活動は派生的な広がりを伴っています。動物園という空間は家族や友人との「憩いの場」になり、学校の利用では「命の教育の場」に、研究機関との関わりでは「動物探求の場」にも結びついています。多くの人が集まる動物園は、観光資源の一端を担うなど重要な都市機能として、街づくりにもつながっています。こうした動物園の存在意義を幅広く理解していただくことは、動物園にも支えていただく市民にも大事なことだと思います。

本誌は大森山動物園と本園の動物を理解していただくための重要な役割を果たしています。今回、101号を新たな気持ちでスタートしたいと思います。

こんにちは!

あかちゃん

2020年8月以降に大森山で生まれた赤ちゃんをご紹介します。

カナ(8月19日)



キヨン

8月11日に1頭が生まれました。5月に次いで2頭目の繁殖で、当園のキヨンは全部で5頭になりました。とても臆病な動物のため、物陰に隠れて見えづらいこともあります。歩き方がとてもかわいらしいです。



チリーフラミンゴ

9月13日に1羽がふ化しました。生後2週間から親と同じく一本足で立っていました。親から口移しでフラミンゴミルクをもらいすくすく成長しています。

フラミンゴのヒナ(10月8日)

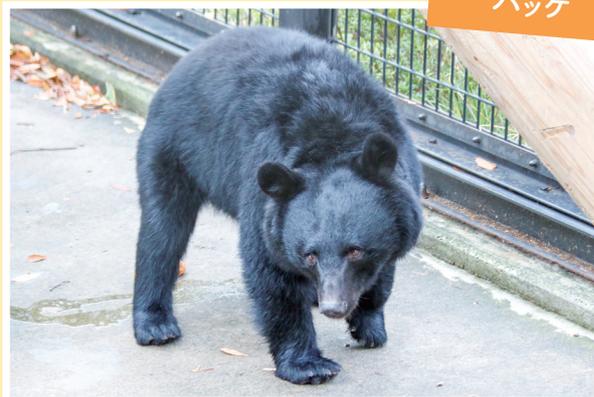
元気でね!

大森山を後にした動物たち

ツキノワグマ

11月17日にオスの「バツケ」が富山市ファミリーパークへ旅立ちました。バツケは2019年2月に当園で生まれ、やんちゃで元気いっぱいの人気者でした。富山でも元気でね。

このほか、ニホンイヌワシの「涼風」やコモンマーモセットの「麦」と「海」、フンボルトペンギンなどが他の動物園に旅立ちました。



バツケ

よろしくね!

仲間入った動物たち

パパイヤ



フクロテナガザル

10月28日に日本モンキーセンターからオスの「パパイヤ」が、11月6日に九十九島動植物園からメスの「ワタル」が、新たに仲間入りしました。当園では初めての飼育展示となります。躍動感あふれる動きと、喉の袋を使って発声する大きな鳴き声が特徴です。

ワタル



ゼン



ホンダタヌキ

秋田でもなじみのあるホンダタヌキ2頭が、11月9日に香川県のしろとり動物園から仲間入りしました。名前は「ゼン」と「タン」です。体の大きさが本州のタヌキと比べるとやや小柄です。普段は巣箱にこもっていますが、エサの時間などは外に出ています。

タン

ルミ



トナカイ

メスの2頭が那須どうぶつ王国から来園しました。名前は「ルミ」と「グラッセ」です。秋田の環境にも少しずつ慣れていきます。全部で5頭になったトナカイの群れは見応えがあります。

グラッセ



飼育動物数 (2020年12月末現在)

哺乳類	50種	343点
鳥類	26種	148点
爬虫類	11種	23点
両生類	2種	4点
魚類	3種	22点
無脊椎	1種	23点
合計	93種	563点

忘れないよ…

訃報



しろ白

スパールバルライチョウ

8月19日にオスの「白」が亡くなりました。2017年3月に那須どうぶつ王国から来園し、真っ白でまん丸な体型が愛くるしかったです。

タケル



ラマ

オスの「タケル」は、10月23日に亡くなりました。2001年5月に当園で生まれ、小さいときからみんなの人気者でした。

メスの「アンズ」は、2013年5月16日にタケルとアンナの間に生まれました。「動物パレード」や「お散歩タイム」で人気でした。12月7日に亡くなりました。まだ7歳と若かったので残念です。



アンズ



しののじょう 信濃丞

シバヤギ

信濃丞は2011年12月7日に長野市茶白山動物園から来園しました。「八木信濃丞」という立派な名前の持ち主でした。たくさんの子どものお父さんとして頑張りましたが、昨年6月頃から調子を崩し、11月27日に亡くなりました。

このほか、コモンマーモセット、アライグマ、ニホンザルなどが死亡しています。



リンリン(左)とケイタ

2020年7月14日、大森山動物園では13年ぶりとなるキリンの赤ちゃんが誕生しました。母親のリンリンは15歳と高齢で、これまで国内では高齢での初産は数例しかありません。今回、獣医師とキリン担当者が力を合わせた繁殖への取り組みをお伝えします。

発情が来ないリンリン

キリンは、およそ2週間ごとのメスの発情でオスと交尾し、妊娠・出産へと至ります。リンリンは大森山動物園に来た2008年時点で発情がなく、オスのカンタとの交尾は見られませんでした。

2011年、キリンの健康管理のために行っていたハズバンドリートレーニングの成果で、無麻酔下での採血に初めて成功し、血液状態を定期的に確認することが可能となりました。私たちは血液の成分中で、繁殖に影響するミネラルの一種、銅の値に注目しました。リンリンの血液は銅が低い値を示していたため、これを改善することで繁殖につながる可能性があると考え、2016年から餌に銅を添加して数値を維持することにしました。



リンリンからの採血

発情から交尾、妊娠

銅の添加を開始して2年後の2018年11月、カンタが激しくリンリンを追う行動(以下、追尾)を確認しました。また、日頃から検査を依頼している岐阜大学から、血液の性ホルモン値が周期的な発情を示しているとの報告もあり、リンリンが正常に発情していることが分かりました。この時点で、リンリンは13歳を過ぎていました。

2019年4月12日、これまでリンリンは発情が起こってもカンタの追尾から逃げるだけでしたが、その日の夕方、一度だけ交尾を確認しました。交尾を確認した後は、あれだけ待ち望んでいた発情がこないことを祈る日々でした。そして、6月8日、ついに岐阜大学から妊娠している可能性が高いという検査結果が届きました。たった一度の交尾での妊娠となったのです。キリンの妊娠期間であるおよそ15カ月間、これまで経験の無いキリンの高齢出産の準備に追われることになりました。

出産前に準備したこと

赤ちゃんが無事に産まれてくるために、リンリンが走って転倒することがないように、観察を徹底しました。悪天候時には速やかに収容するなど、リンリンに事故が起こらないよう、また、余計なストレスを与えないように細心の注意を払いました。

リンリンは15歳という高齢の出産で、様々な問題が考えられたため、獣医師とキリン担当で対策会議を重ねました。日本では15歳以上の初産で子どもが30日以上成育した例はなく、難産で母子ともに死亡する可能性もあったため、獣医師は出産介助の成功例や失敗例、介助しても出て来なかった場合の麻酔方法も調べました。キリンに麻酔をかけることはとても難しい事で、国内の動物園や獣医大学のほか、アメリカの獣医麻酔専門医や動物園から集めた資料を基に麻酔のシミュレーションや道具の作成なども行いました。

また、リンリンが高齢のため産後母乳が出ない場合、授乳は担当者が行うと決め、他園から人工哺育に関するデータをもらい臨みました。



準備作成した呼吸管理のための挿管セット

出産当日と人工哺育の開始

出産予定日から1週間が過ぎた7月13日の夜、休む時間になってもリンリンは座らず、いつもと違う行動が見られたため、夜を徹した観察を行いました。リンリンは時間を追うごとに落ち着きがなくなって陣痛が始まり、翌14日の朝7時に破水を確認しました。それ以降は順調に経過し、約2時間後に無事出産しました。心配していた難産にはならず、リスクの大きい麻酔や出産介助は出番がなくなり安堵しました。

安心したのも束の間、出産後30分で赤ちゃんは自力で立ち上がりましたが、リンリンは赤ちゃんに無関心なばかりか、赤ちゃんが近づくと地面を蹴るような行動を見せました。このままでは赤ちゃんが危ないと考え、母子を分けて人工哺育することにしました。赤ちゃんの体を拭き、体重測定をした後、大切な初乳成分が含まれた粉ミルクを試行錯誤しながら与えましたが、思ったように飲んでくれません。次の日も同じ状況なら別の方法を考えなければと思いましたが、翌朝からグイグイ飲み始め、不安だった私たちを安心させてくれました。



出産直前(7月14日)



自力で立ちあがったケイタ
(身長175cm、体重52kg)

これから

赤ちゃんの愛称は公募で「ケイタ(恵太)」に決まりました。ケイタの成育は順調で、12月12日には体重が210kgと生まれた時の約4倍、頭までの高さは約260cmとなり、体つきもがっしりしてきています。また、1月現在、1日1回のミルクの他は、大人のキリンと同じものを食べています。

最近ではリンリンとの同居訓練を進めており、2頭の距離は徐々に近づいています。春の通常開園時には一緒に展示できるように、これからも大切に育てていきたいと思えます。ケイタが成長していく様子をあたたかく見守って下さい。



授乳の様子(7月20日)



授乳の様子(1月14日)



1973年の大森山動物園開園当時からあったサル舎（以下、旧サル舎）は、展示面が細かい金網で、寒い時期はサル達が外に出たがらず、来園者からも見にくいという展示の問題のほかに、施設の狭さや設備の老朽化により、動物の安全管理上、飼育作業もしにくい不便な施設になっていました。

2017年に新しいサル舎（以下、新サル舎）を建設することが決定し、2018年には先進地である旭山動物園や札幌市円山動物園を視察して、「サルがサルらしく暮らすことができる施設」をメインテーマとし、以下の基本コンセプトをまとめました。

1. サルが躍動的に動き回る姿や家族や群れの営みを様々な角度から観察できる施設
2. チンパンジー舎と屋上で施設を連結することで霊長類展示施設として一体感のある施設
3. 動物福祉に配慮することで、サルが身体能力を發揮し、のびのびと暮らせる施設
4. 来園者が天候や気温に影響を受けずいつでも快適に過ごすことができる施設

2019年10月下旬に旧サル舎のサル達を動物病院などに引っ越しさせ、11月上旬から工事が始まり、2020年10月7日に無事完成しました。完成後、新サル舎にサル達を受け入れる準備を進め、新しく仲間入りしたフクロテナガザルのオス「パパイヤ」、メスの「ワタル」が入居第1号となりました。その後、エリマキキツネザル、ワオキツネザル、ブラッサグエノンの順番で入居し、1月時点でアビシニアコロブスは入居待ちです。

新サル舎は、1月の「雪の動物園」から一部を開放し、3月の通常開園からオープンします。



屋外展示場

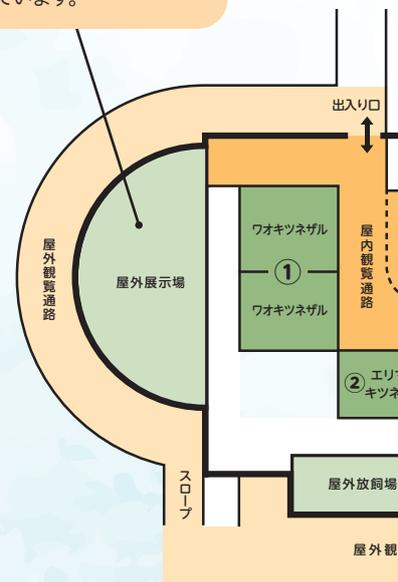
旧サル舎と比べ、新サル舎は屋外展示場から高さが2倍以上の6～8mになりました。また、旧サル舎ではすべてのサルを横並びに展示するアパート形式でしたが、新サル舎では2種類のサルが1つの屋外展示場を日替わりで使用することで、広々と屋外展示場を使えるようになります。

なお、ワオキツネザルの屋外展示場は、将来、来園者が中に入ってサルと同じ空間で観察できる施設となっています。



チンパンジー舎との連絡橋

新サル舎のサルとチンパンジーを一体的に見ていただくために、新サル舎とチンパンジー舎を屋上で結ぶ橋を架けました。橋の上から屋外展示場で動き回るフクロテナガザルやアビシニアコロブスをご覧いただけます。



休憩スペース

新サル舎えた屋内休みの日でも、ゆれをくぐり、また、秋田プロジェクトをモチーフ

サル舎の仲間たち

① フオキツネザル



旧サル舎では3つの群れに分かれていましたが、新サル舎では2部屋で2つの群れになりました。1部屋に10頭以上の群れは見応えがあります。

② エリマキツネザル



白と黒のふわふわした毛がとともかわいらしく見えますが、見た目によらない大きな声はガラス越しでも聞こえます。

③ ブラッサグエノン



水戸黄門様のような白いヒゲ、頭には頭巾のようなオレンジの毛が生えています。引っ越しの時は少し緊張していましたが、すぐに新居に慣れたようです。

④ アビシニアコロボス



動物病院での仮住まい中にレイアが赤ちゃんを生みました。やんちゃ盛りの子供は「がっこ」(秋田弁で漬物)と名付けられました。

⑥ その他の展示動物



⑤ フクロテナガザル



大森山動物園では初めての展示となります。オスのパパイヤは愛知の日本モンキーセンターから、メスのワタルは長崎の九十九島動植物園からやって来ました。木の上ではダイナミックな動きですが、座っている姿や地上を歩いている姿はとともかわいいです。



小動物舎の隣にあった「爬虫類の部屋」を新サル舎に移動しました。インドホシガメとコモンマーモセット、ムツアシガメとグリーンイグアナが同居する様子も見ることができます。鳥類ではサンショクキムネオオハシを展示します。



スペース

にはトイレや冷暖房を備えた休憩スペースがあり、雨や雪の降ったりと室内展示場のサツタだけです。

日公立美術大学とのアートで制作した壁面アートやサツタとしたイスも設置します。



新サル舎の愛称は、雪の動物園期間中に募集し、3月20日の通常開園日に発表します。今後も来園者に親しまれ、サル達が快適に暮らせる施設となるよう動物園スタッフみんなで頑張っていきます！

飼育レポート

新サル舎に導入したサルのお迎えや、展示に向けた準備、引っ越し後の様子などをレポートします。

パパイヤのお迎え

飼育展示担当 齋藤 勇

2020年10月25日の夜、新サル舎に迎えるフクロテナガザルのパパイヤの引き取りと、飼育研修のため、私とスタッフ2人が愛知県の日本モンキーセンターに自動車で行きました。10時間後に無事到着し、パパイヤと初対面。パパイヤの印象は、活発に動き回り、担当者の言うことを理解しているのか、とても素直な性格に見えました。担当者に確認したところ、私の印象どおりの性格で人にも慣れているようです。研修では、エサや薬の与え方などを教えていただきました。驚いたのは、サル同士はよくお互いのエサを取り合いますが、フクロテナガザルは2頭並んで争わずに自分に与えられたものだけを食べていました。

秋田への帰り道、はじめは不安そうに鳴いていたパパイヤでしたが「怖くないよ、大丈夫だよ」と声をかけて、しばらく経つとおとなしくなり、エサも食べてくれました。新サル舎の入居第1号となったパパイヤ。飼育が始まってもう素直という印象は変わりません。これからよろしくね。



パパイヤの搬入
(10月28日)



搬入当日の
パパイヤ

新サル舎での展示に向けて

飼育展示担当 鈴木昌典

新サル舎での展示に向けた最初の作業は、旧サル舎から工事が完了するまでの仮住まいへの50頭近いサルの移動でした。これは長年の経験を持つベテラン飼育員でも一度あるかないかの大仕事でしたが、2019年11月に無事にサル達の移動が終了し、2020年10月に新しいサル舎が完成しました。

ここからが次の作業の始まりです。動物の特性をお客様により楽しく見ていただくため、まずは室内展示場の整備を始めました。

新サル舎で初めて飼育するフクロテナガザルの展示場では、他の動物園の視察や情報交換、飼育研修などを参考に、テナガザルの特徴であるブラキエーション(両腕で交互に枝をつかんで移動すること)ができるロープやつり革などの取付けを行いました。

また、ワオキツネザルの展示場には、ジャンプ台、空中ブランコなどを段違いに設置し、数メートルもジャンプする凄い運動能力を見てもらえるようにしました。

サル達の特徴に合わせた室内展示場の整備が終わると、仮住まいからサル達を新居に移す作業です。これも前回の移動と同じく大仕事となりました。

新サル舎は、3月20日のオープンに向けて準備作業が続いていますが、見学するお客様とサル達に喜んでもらえるよう、これからも展示の工夫を続けていきます。



ロープで遊ぶフクロテナガザル



ブランコなどが設置されたワオキツネザル展示場

お引っ越し後のサルたち

獣医師 湯澤菜穂子

いよいよ新しいサル舎に入居したサルたち。エリマキキツネザルやワオキツネザルは、以前から暮らしていた個体同士で移動したため、新しい環境に慣れるまで、さほど時間はかかりませんでした。

一方、フクロテナガザルは、オスの「パパイヤ」は愛知県の本モンキーセンターから、メスの「ワタル」は長崎県の九十九島動植物園森きららからやってきた初対面同士です。このような場合、一緒に暮らす仲間になれるかどうかの相性を見るため「お見合い」の期間を設けます。動物は人間よりずっと力が強く、万が一ケンカなどになった時は、お互いに大怪我をする危険性があるため、お見合いでは動物の表情や動きをよく観察しながら少しずつ両者を近づけていく必要があります。

昨年11月の来園時に隣り合った別々の部屋に入ったパパイヤとワタルは、初めは互いに緊張感こそありましたが順調に距離が縮まっていき、最終的には飼育員が「今日のお見合い時間は終わり」と言っても2頭がくっついて帰

てこない、というくらい仲良くなりました。同居が成功した2頭、今後もどんどん仲良くなって赤ちゃんが誕生してくれることを願っています。



すぐに仲良くなったパパイヤ(左)とワタル

アフリカゾウ「だいすけ」の治療

獣医師 小川裕子
飼育展示担当 山上 昇

アフリカゾウの「だいすけ」は、1990年に南アフリカ共和国から当園にやって来ました。グレープフルーツとバナナが大好きな31歳のオスです。数年前から少しずつ、右後肢の足根関節(くるぶし部分)が内側に変形したことで、体重を支えるために反対側の左後肢にも負担がかかっている状態です。2019年10月からは右後肢内側に腫脹病変があり現在も治療しています。

そのような状況の中、2020年10月上旬には、だいすけは自ら屋外展示場に出なくなりました。痛みがあるからなのか、精神的な不安からなのか理由ははっきりわかりませんが、現在も検討を重ねながら可能な限りの治療を行っています。

治療は、ゾウ担当者がゾウに指示を出しコントロールすることで可能になるため、獣医師とゾウ担当者がチームになり協力して行います。内服薬は、好物に入れて与えるなどゾウに不信感を持たれないよう工夫して行っています。

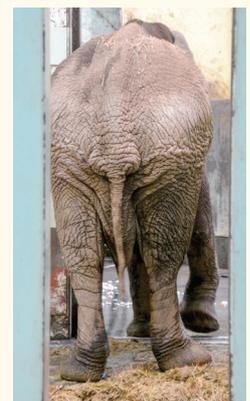
10月下旬の夜、よろけて後傾になり倒れそうになっただいすけの姿をモニターで見た時は焦りました。足が悪いゾウが倒れてしまうと自力で立ち上がる事が難しいからです。倒れて動けなくなると、血液循環が悪くなる他に体の維持に重要な腸管の動きが悪くなり、最悪の場合、死に至ります。幸いにも、後肢を踏ん張り体勢を立て直し倒れませんでした。それから何週間も気が抜けない日々を過ごしました。

だいすけの体調を回復させるため、最も工夫していることはエサの内容です。動物園では主に乾牧草のほか、リンゴ、ニンジン等の根菜類も与えています。季節により生草や園内の樹木から枝葉も剪定し食べさせていますが、樹木の種類も限られるため、冬期間は笹竹類が頼りになります。チームで協力し、免疫力アップや良いウンチが出るように、新鮮な竹や木を毎日給餌しています。だいすけは、竹や木は驚くほど豪快にバキバキ音を立て食べ、良いウンチをしてくれるので、担当チームみんなが喜んでます。

だいすけは11月からは体調も安定していますが、1日も早い完全回復を目指し、これからもチーム一丸となって頑張ります。



体調が安定しエサを食べるだいすけ



変形した右後肢

イベントレポート

秋の動物ふれあいフェスティバル(10月4日)

ツキノワグマの
展示場見学



恒例の「どうぶつパレード」はお客様の密集を避けるため実施できませんでしたが、園内10か所に設置したクイズに挑戦する「ウォーククイズ」や、普段動物たちが過ごす展示場内部の見学を開催しました。

また、13年振りに当園で誕生したキリンの愛称募集を行い、応募のあった約1,100点の中から「ケイタ」が選ばれました。命名式には名付け親の石川泰聖君とそのご家族、穂積市長も出席し、愛称の決定をお祝いしました。



キリンの命名式
(命名者ご家族と
穂積市長)

ウォーククイズの問題に挑戦!

問題 ノドジロオマキザルがよくする変わった食べ方はどれ?

- ① 仲間から食べさせてもらう
- ② エサを頬袋の中に入れて、ふやかしてから食べる
- ③ リンゴなどを硬いものにこすりつけ、すりおろして食べる

答えはページ下部にあります



どうぶつサイエンス(10月18日)

2021年の干支が「丑」なので、「ウシのなかまのひみつをさぐる」をテーマに、自然科学学習館との共催で実施しました。大森山動物園にウシはいませんが、ウシに近い動物といえばキリンです。7月に生まれたキリンのケイタについて学んだあと、授乳の様子を見学しました。また動物の骨の標本を使い、ウシ科とシカ科の違いを見てもらいました。参加者からは、普段はできない体験ができたことと非常に好評でした。



キリンの
エサやり体験

さよなら感謝祭(11月29日)

穂積市長や高木名誉園長にご参加いただき、お客様や動物たちへの感謝を込めて開催しました。セレモニーでは亡くなったトナカイの「雁来^{かりま}」などに慰霊の献花を行ったほか、イベントでは、アシカのトレーニング体験やリース作り体験などを行いました。新型コロナウイルスの影響で例年通りとはいかないシーズンでしたが、無事に締めくくることができました。

感謝祭
セレモニー



アシカの
トレーニング体験



今後のイベント

2021年通常開園

3月20日(土)~11月30日(火)
※期間中無休

いい夫婦の日イベント(11月22日)

今年も「いい夫婦の日イベント」を開催しました。事前に申し込んでいただいたご夫婦やカップルの皆さんに、ヤマアラシとペンギンのエサやり体験やコモンマーモセットのどうぶつ解説を楽しんでいただいたほか、ポニーとの記念撮影ではパートナーへのメッセージをボードに書き、日頃の感謝の気持ちなどを伝え合ってもらいました。

ポニーとの
記念撮影



コモンマーモセットの
どうぶつ解説

特別編

ヤマアラシだって目立ちたい!!

飼育展示担当 堀籠麻子

「あっ!ハリネズミ!」とよく間違われるアフリカタゲガミヤマアラシ(以下ヤマアラシ)。分かりやすいはずなのに名前と見た目がなかなか一致しないヤマアラシ。そう、決して花形動物ではありません。飼育担当者としてもっとヤマアラシの魅力アピールしようと、今回、入園ゲートを入ってすぐのヤマアラシの展示場をリニューアルしました。

ヤマアラシが穴を掘るため地面の土は残し、好きなときに食べられる草むらや、水浴び、落ち葉遊びができるプール、来園者と目線が合うお立ち台などを作り、ヤマアラシが自由に行動を選択できる展示場になりました。11月22日に開催された「いい夫婦の日イベント」では7組の夫婦にエサやり体験をしてもらいました。参加者からは「意外にかわいい、面白い!」と好評で、皆さんの夫婦愛をお裾分けしてもらったので、ヤマアラシ夫婦にもいいお知らせが届くかも!?

さらに! プレーリードッグ展示場にも「プレ天空橋」を架け、2階建てにしました。プレーリードッグは好奇心旺盛で意外に運動神経がいいので、小走りでも橋を渡る姿をご堪能ください。これからも動物とお客様、飼育員がわくわくするような動物園作りを工夫していきますのでお楽しみに!



天空橋を渡る
プレーリードッグ



新展示場で
ヤマアラシの
エサやり体験

飼育日誌

8/1	キリン	カンタ♂を展示場、リンリン♀をバドック、仔♀をサブバドックにて放飼する。
8/4	トナカイ	塩曳湯での放牧開始。
8/7	フラミンゴ	2ペアの産卵確認。
8/11	ライチョウ	まめこ♀ 跛行と熱感のため抗生剤・痛み止め内服。
8/13	キリン	リンリン♀と仔♂ 同居訓練。
8/14	ロップイヤー	ゆず♀ 左前肢の脱毛、菌による可能性あり。抗真菌剤を塗布。
8/18	キョン	親子(7日齢)をオープン放飼。
8/20	ライチョウ	まめこ♀ 重度の寄生虫感染確認。
8/22	カピバラ	マカロニ♂(去勢) 胸に若干の脱毛と赤みあり。抗真菌剤を塗布。
8/23	キリン	仔♂ 室内に収容後、突然馬栓棒に向かって走り下段の馬栓棒をまたぐ。
8/24	コモンマーモセット	性別不明2頭 出生。
	シンリンオオカミ	シン♂ 室内出血痕あり。右後肢のナックリングでできた擦り傷からの出血だと思われる。
9/1	トナカイ	塩曳湯での放牧終了。閉園後に展示場へ戻す。
9/2	キリン	仔♂ 授乳の間隔が短いと哺乳拒否に繋がりがやすく、1日4回から3回に変更。
9/5	ケヅメリクガメ	ゴダイ♀ 呼吸音の異常あり。鼻水が詰まっている可能性あり。明日から投薬予定。
9/9	ノドジロオマキザル	エディ♀ 性別不明1頭出生。のちに性別♂と判明。
9/10	ノドジロオマキザル	仔♂ 動きに異常なし。授乳確認する量は確認できず。
9/13	アフリカタテガミヤマアラシ	ウエルカム動物舎工事中の退避展示場への馴致訓練。
9/14	ノドジロオマキザル	仔♂ 死亡。
9/16	マーコール	クルミ♀ 削瘦。個別給餌のため、隔離飼育を開始。
9/19	エミュ	ケー♀ 左脚跛行。消炎剤塗布で対応し、経過観察。
9/21	カリフォルニアアシカ	採血トレーニングを実施。
10/1	シバヤギ	信濃丞♂ 朝、自力での起立不可。日中、担架での起立補助、採食やや良好、排尿あり。夕方、自力で起立。
10/7	アフリカゾウ	だいすけ♀ 外に出ず、3日から終日室内展示が続いている。鎮痛剤、下剤などを毎日内服。
10/12	ニホンリス	シュウ♂ 死亡。
10/13	レッサーパンダ	ケンシン♂ 右鼻梁少量排膿。 ゆり♀と小百合♀ 30分程度の同居展示。
10/18	ライチョウ	まめこ♀ 両足裏、腹下ワセリン塗布。右足裏趾瘤症治療薬を塗布。
10/20	ユキヒョウ	リヒト♂ 15回目の採血実施。
10/21	チリーフラミンゴ	ヒナ(9月13日生)のくちばしが曲がってきている。
10/25	アフリカゾウ	だいすけ♀ 寝室清掃後、リリー♀の寝室から動かず、部屋を逆に収容。
10/27	キリン	カンタ♂ 血中のリンの値低下。
10/28	アフリカゾウ	だいすけ♀ 食欲なし。アタック行動あり(~10/29)。
10/30	シンリンオオカミ	シン♂ 首が右へ傾く様子が目立つ。
10/31	アフリカゾウ	だいすけ♀ やや歩行困難、軟便、左牙周囲腫脹。消炎鎮痛剤・胃粘膜保護剤内服(~11/5)。
11/2	クジャク	鳥インフルエンザ対策のため、全羽を小屋に収容。
11/3	チンパンジー	コタロウ♂とルビー♀ 同居。
11/5	シバヤギ	信濃丞♂ 自力で数歩の歩行あり。
11/10	アフリカゾウ	だいすけ♀ 状態安定、採食良好。
	キリン	ケイタ♂ 授乳を1日3回から、2回に変更。

11/11	プレーリードッグ	8頭群を新しい展示場へ展示する。
11/13	レッサーパンダ	ひなた♀ 右耳殻内に噛み傷と思われる新しい傷あり。 ゆり♀ 右耳殻内にひなたと同様の傷あり。治りかけ。
11/14	チンパンジー	ボンタ♂ 射精。採精できず。
11/15	フロテナガザル	パパイヤ♂とワタル♀ お見合い実施。関係良好。
11/16	ツキノワグマ	バック♂ 搬出前日のため絶食絶食。ルビー♀も同室のため絶食。
11/17	シンリンオオカミ	シン♂ 右後肢ナックリング状態。非展示で投薬開始。
11/18	ケヅメリクガメ	ミコ♀ 16日から食欲無く、少量採食。午後、X線撮影、温浴、尿酸の排出あり。
11/20	ラマ	アンズ♀ 呼吸が速い。
11/22	トナカイ	ルイ♂ 両角が落角。24日にルドルフ♂も両角が落角。
11/23	シンリンオオカミ	シン♂ 本日から展示再開。
11/24	ホンドタヌキ	糞場で糸虫を確認。明日、駆虫薬を内服。
11/25	エリマキキツネザル	3頭を新サル舎へ移動。
	ラマ	アンズ♀ 抗生剤の内服開始。
11/26	シバヤギ	信濃丞♂ 起立不能。採食が減退。声掛けへの反応鈍い。
	キリン	カンタ♂ 便秘悪化。夜間分が牛糞状、朝は下痢。日中は緩い牛糞状まで回復。
12/1	フロテナガザル	パパイヤ♂とワタル♀ 同居訓練を開始。
12/5	アムールトラ	カサンドラ♀ 採血トレーニング。
	フロテナガザル	同居訓練時に交尾行動を確認。
12/8	ミーアキャット	川原群♀ レントゲン検査。妊娠の可能性あるため、部屋に産箱を設置し、隔離飼育。
12/9	ワオキツネザル	B群(15頭)を新サル舎へ移動。メスへは発情抑制剤挿入処置を実施。
12/14	アカカンガルー	フレンドール♀ 右頬に腫れあり、よだれも確認。抗生剤の筋肉注射を実施。
	プレーリードッグ	オクレ♂ 削瘦のため触診・レントゲン撮影。
12/15	キリン	カンタ♂ 午後から便秘悪化。下痢。夕方震えあり。ベレット採食不良。
12/16	ニホンザル	性別不明1頭 死亡(暴風雪のため回収できず)。
	コモンマーモセット	おまめ♀ 鼻水、顔の黄疸を確認。抗生剤を投与した。
12/17	ツキノワグマ	ココミ♂とルビー♀ 本日より冬ごもりを開始した。
12/19	アライグマ	アライくん♂ 前日の餌を半分残す。夕方に胃液を吐き、食欲不振。
12/21	ニホンイヌワシ	第2ペア巢内へ直接巣材を投入。
12/22	アフリカタテガミヤマアラシ	ハルマキ♂とチョモ♀ 交尾確認。
	キリン	ケイタ♂ 本日から授乳回数を1回に変更。1月25日で授乳終了する予定。
	アライグマ	アライくん♂ 朝、死亡を確認。
12/24	ライオン	マンゴー♀ 3日間排便ないため、下剤内服。
	ニホンイヌワシ	第1ペア、第2ペア 数回の交尾行動あり。
12/25	ムツアシガメ・オオハシ	新サル舎へ移動。
12/26	シバヤギ	ヤムチャ♀ 他個体に複数回頭突きされ転倒。伏臥からは自力で起立するが、横臥から伏臥に戻れない。
	シマフクロウ	愛花♀ 採血・健康チェック。
12/27	シバヤギ	ヤムチャ♀ 朝、死亡を確認。
	ホシガメ・イグアナ	新サル舎へ移動。
12/29	キリン	カンタ♂ 午前中に黄緑色の鼻水が多量に出ている(午後は見られず)。
12/30	ホオアカトキ	♀1 死亡。

お客さまの声

- 8/8 新型コロナウイルスのために色々なイベントやふれあいコーナーが中止になっており残念です。また再開したら参加したいです。
- 9/4 キリンの赤ちゃんを生まれて初めて見る事ができました。人工哺育が上手く行き、スクスク育つことを祈っております。
- 9/17 「動物園で働く人」に注目した掲示、イベントもぜひやってほしい。
- 10/31 動物を近くで見られて楽しい。もうすこし動物の展示場のガラス部分がきれいだと、よく動物を見られると思う。
- 11/22 コロナに負けないで!!来年も楽しみにしています!!!
- 11/28 仕事が休日の日、来園させていただいています。一日または数時間、動物たちを見ていると日常のいやなことなど忘れれます。平和な気持ちになれます。感謝しています。

かたばた通信

私が大森山動物園に勤務するようになって約3年。その間、新サル舎の建設という大きな事業に関われたことは、担当者の一人としてなかなかできない良い経験をさせていただきました。新しいサル舎は、アフリカ系のサルをメインに、は虫類や鳥類など、様々な動物が快適に暮らし、来園者が楽しく観覧、休憩できる施設を目指しました。昨年10月に建物が完成し、展示施設としてはこれからがスタートですので、未永く来園者に利用していただける施設になってくれれば良いなと思います。

(土佐)